



県下唯一の「特別地区」に舞う ギフチョウを守る

文・写真 神奈川県自然環境保全指導員 **三宅 岳氏**

神奈川県内23市町に70か所----- 県が指定する「自然環境保全地域」である。その中でも唯一の「特別地区」が、相模原市の石砂山地区。旧藤野町南部である緑区牧野、道志川左岸に位置する標高578mの石砂山に広がるエリアで、神奈川県指定天然記念物「ギフチョウ」の太平洋岸最東端の生息地でもある。かつては、宮ヶ瀬、多摩丘陵・高尾山にも生息していたが、それらは消滅。現在、石砂山に最も近い生息地ですら静岡県富士川方面・・・と聞けば、いかに隔離された分布かわかるか。

蝶マニアの収集対象でもあったギフチョウ。かつて石砂山のギフチョウにもずいぶん採集圧がかかり、生息数は激減した。その魔手からギフチョウを守ってきたのは、県による天然記念物指定、加えて「しのばらギフチョウの会」という地元住民グループによる地道で熱意溢れる長年の保護活動である。

ギフチョウやその食草（幼虫時に食す特定の草）などの採集に罰金が課されるようになってからは回復傾向にあった個体数だが、近年は再び減少気味だ。それは、食草「カントウカンアオイ」についても同様である。

原因のひとつにニホンジカによる食害が挙げられる。確かに、姿や糞などを見かけることがずいぶん増えた。おそらく、冬の間も緑の葉をつけているカンアオイは、シカの格好の餌になっているのではないだろうか。また、かつては石砂山にはヤマビルは皆無であったが、シカの進出とともにヤマビルが急増、定着した。

こうした状況への対策として、限られた場所で、カンアオイの生育がシカにかく乱されないよう実験的に柵を設置した。さてどうなることか。間もなく訪れるギフチョウの季節。気になることばかりである。



石砂山の雑木林を飛翔するギフチョウ。「女神」といわれるが、正面から眺めるとなかなか精悍だ。



ギフチョウの食草はカンアオイの仲間のみ。石砂山では「カントウカンアオイ」。その個体数は激減している。大きな株は、写真のように多数の葉をつけるが、今やこのような個体はなかなか見られない。

カンアオイの花は、地面すれすれの低い位置に、秋から冬にかけて咲く。



カンアオイの葉裏に産みつけられたギフチョウの卵。孵化した幼虫は6月には蛹化する。



緑の募金へのご協力ありがとうございました

募金総額 **1,243,134円**
※相模原市域集計額 [2023年2月1日～10月末]

募金協力団体一覧（敬称略/順不同）：

※なお、個人情報保護の観点から、個人名は省略させていただきます。

アイ・アール税理士法人相模原中央事務所、(株)アイスコ、(株)旭商会、アマノ(株)相模原事業所、(株)ウィッツコミュニティ、(株)糖義、大沢川の自然を知る会、尾崎理化(株)、上野生産森林組合、(株)河本総合防災、明治安田生命保険相互会社湘野辺営業所、相模警備保障(株)、相模トライアム(株)、相模原かめりあロータリークラブ、相模原グリーンロータリークラブ、相模原市農業協同組合、さがみはら津久井森林組合、(株)相模原木材センター、さがみビルメンテナンス協同組合、(株)サット、三太の里共和国、社会保険労務士法人安藤事務所、(株)スポーツテクノ和広、タイヨー印刷(株)、ダイドービジネスサービス(株)、(株)タウンニュース社相模原支社、東海体育指導(株)相模原支店、(株)東京加熱サービス、東テック(株)、(株)ニシコウポレーション、日本コンピュータ・ダイナミクス(株)、(株)野崎工業所、(株)パティネレジャー、橋本駅北口第一再開発ビル(株)、平塚信用金庫相模原中央支店、(株)フクシ・エンタープライズ、藤野やまなみ温泉、芙蓉実業(株)、細田明彦税理士事務所、牧野元気創生会、(株)明治スポーツプラザ、大野北地区自治会連合会、相模台地区自治会連合会、山王自治会、嶽之内自治会、嶽之内自治会みどりを守る会、津久井地区自治会連合会、橋本地区自治会連合会、藤野地区自治会連合会、星が丘地区自治会連合会、若葉台自治会、(一社)相模湖観光協会、(一社)津久井観光協会、(一社)相模原市建設業協会、(福)相模原市社会福祉協議会、(公財)相模原市勤労者福祉サービスセンター、(公財)相模原市産業振興財団、(公財)相模原市スポーツ協会、相模原市水みどり環境課、相模原市農業委員会、相模原北警察署、津久井警察署、津久井交通安全協会、大島小、大野小、大野北小、鹿島台小、くぬぎ台小、田名北小、湘野辺小、湘野辺東小、若松小、内郷中、内出中、大沢中、新町中、相陽中、東林中、中沢中、北相中、神奈川総合産業高、相模原名高、相模原高、相模原城山高、相模原弥栄高

お寄せいただいた緑の募金は、市内の緑化の推進に活用させていただくほか、国・県の緑化事業や、災害被災地域への緑化等の復興支援にも活用されます。

私たちは相模原市まち・みどり公社とともに「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告

お庭のお手入れや
緑化工事など、
お気軽にご相談ください。

相模原
造園協同組合

<http://www.sagamihara-zouen.jp/>
TEL : 042-773-8977 FAX : 042-773-5051

広告

2024年3月1日 編集／発行：公益財団法人 相模原市まち・みどり公社

住所：〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 TEL：042-751-6623 FAX：042-751-2345

相模原市まち・みどり公社は、「さがみはら SDGs 推進企業」として、地域とともに環境や社会に配慮した事業を推進しています。

SAGAMIHARA GREEN

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

Vol.70
2024.03



2～3ページ▶

桜守活動のすすめ

公益財団法人日本花の会 上級研究員

樹木医 西山 正太氏

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて 県下唯一の「特別地区」に舞う ギフチョウを守る

神奈川県自然環境保全指導員

三宅 岳氏

‘神代曙’（ジンダイアケボノ）

接ぎ木や挿し木によって全国に普及した‘染井吉野’。遺伝情報が同じ‘クローン’であるため、伝染病の蔓延を防ぐことが難しく、今では、代替品種として‘神代曙’の活用も進められている。開花時期がやや早く、少しピンクが濃いのが特徴。
(写真提供：NPO さがみはら桜守の会)

春を彩る球根植物「チューリップ」～国内育成品種に注目～

文・写真 育種家・ヘッドガーデナー **矢澤 秀成氏**

一番好きな球根植物と言われたとき、「チューリップ」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。日本人にとって、春を彩るチューリップは、子どもの頃に歌った「咲いた咲いたチューリップの花が～♪」（童謡 チューリップ）などで親しんだ花ですね。

世界で登録されている品種は5,000を超えます。花色は、赤・白・黄・桃・紫・橙など、とてもカラフルで、咲き方も一重咲き・八重咲き・百合咲き・フリンジ咲き・パーロット咲きなどバラエティー豊かです。以前は4月中下旬から5月上旬に咲くことから、大型連休を彩る球根植物でしたが、最近では温暖化の影響もあり、4月上旬から4月下旬が見頃となることが多くなりました。

最近の傾向では、比較的花持ちの良い八重咲き品種の取り扱いが増えています。美しい薄黄緑色のペロナ、薔薇を連想させる濃赤紫色のブルーダイヤモンド、花卉数のとても多いユニークなイエローボンネット等々、海外で育成された八重咲き品種が多数栽培されています。

また、日本国内で育成された個性豊かな品種が多く、今、注目されています。例えば、富山県内で育成された珍しい百合咲きの八重咲き品種の「なごり雪」はレモンイエローの美しい花姿です。同じく富山県内で育成された「乙女のドレス」はTVで紹介されるなど、珍しいフリンジ咲きの八重咲きは幾重にも重なったドレスのようです。他にも新潟県内で育成された牡丹のようなピンクの八重咲き「越爛漫」など、国内育成品種も頑張っています。この春は、品種に注目して、チューリップの花を愛でて下さいね。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

桜守活動のすすめ

さくらもり

文・写真 公益財団法人日本花の会 上級研究員
にしま ただし
樹木医 西山 正大 氏

桜の開花が待ち遠しい季節になってきました。厳しい冬の寒さに耐え、穏やかな春の到来を知らせるように咲く桜は、生命の息吹を感じさせると同時に我々の心を躍らせます。花の時期には注目を集める桜ですが、その関心は徐々に薄れ、新葉が芽吹くころにはほとんど意識されません。しかし、日頃から桜の観察を心がけると、桜にも異変が生じていることに気がつきます。

今回は桜が置かれている状況や我々ができることについて紹介します。

【桜と言えば『染井吉野』】

春になると淡紅色の花が一齐に咲き、パッと散る。桜といえば、そんなイメージをお持ちではないでしょうか。我々が抱く桜のこのイメージは『染井吉野』の影響によるものです。

『染井吉野』は江戸時代末期に染井村（現在の文京区駒込）にあった植木屋が「吉野桜」として売出したのが始まりとされます。葉が出る前に花が咲いて樹全体が花に覆われること、成長が早いことからヤマザクラよりも早くに名所が創れる桜として人気が出ました。また強健な性質を持ち、厳しい環境でもそれなりに育ちます。増殖にも手間がかからないため、全国各地（北海道や沖縄などの一部を除く）に大量に植えられ、日本を代表する桜になりました。

一方、古くから日本人が親しみ、観賞や信仰の対象にしていたのは野生種のヤマザクラです。日本には古代より卯月8日に春山入りの風習がありました。これは稲作を始める前に田の神を山から招く儀式の一つで、桜はその神霊の依代であったと考えられています。また、桜の開花を農時記に、開花の状況を豊凶の占いに利用していたという記録も残っています。その後、上代には貴族による観桜会が始まり、中世には武士による絢爛豪華な花見が催されます。そして、江戸時代に定着した庶民の行楽としての花見が現在の花見の原型になったと考えられています。このように、日本人にとって生活の一部であった桜が観賞に特化していき、それを象徴しているのが『染井吉野』と捉えることができます。



『染井吉野』の花



ヤマザクラの花

【有難い存在の桜】

桜は日本人にとって身近過ぎるため、既存の桜はそこにあるのが当然という感覚に陥ります。しかし、都市で見られる桜のほとんどは人が植えたものであり、『染井吉野』は人がクローン増殖したものです。自然に種子から芽生えて定着したものではないので、人が手をかけないと育ちません。既存の桜は先人が何かしらの想いを託して植栽し、その後も世代を超えて大切に育てられてきた歴史を持ちます。そして、今では都市の緑の骨格となり地域の生命を育み、CO₂の吸収やO₂の供給、空気の浄化の他、夏季には木陰を提供してくれています。現在、我々が立派な桜の恩恵を受けられるのは先人の尽力の賜物とも言えます。



桜とカワラビワの雛



蛾を捕食するヨコヅナサシガメ

【桜が直面している存続の危機】

各地で『染井吉野』の行く末が懸念されています。その原因の一つに高樹齢化による成長の鈍化もありますが、他にも次のようなことも影響しています。

(公財)日本花の会
桜の名所づくり・
病害虫などの
情報はこちらから



矮小な生育環境

『染井吉野』は桜の中でも特に生育が旺盛で大木になる性質があります。本来、利点といえるこの性質は狭小な日本の都市では不都合となります。都市においては構造物や法令によって根や枝が伸張できる範囲が制限されます。生命力が強い『染井吉野』はそのような環境でも必死に根や枝を伸ばしますが、想定範囲外に伸びた部分は切断され、さらに都市の開発や再整備の度に深い傷を負うこととなります。その結果として幹や枝に生じた腐れや空洞は桜を枯らすことは稀ですが、落枝や倒伏が危惧され最終的には伐採される運命を迎えます。

また『染井吉野』には伝染病のサクラ類てんぐ巣病が知られています。大木になった『染井吉野』ではこの病気の対策に手を焼きます。『染井吉野』の十分な生育空間や管理が望めない場所では『神代曙』を活用するのの一つの方法です。『神代曙』は花が『染井吉野』に似ていますが、大木にならずサクラ類てんぐ巣病に罹り難い特長があります。



都市における『染井吉野』の生育環境



『神代曙』への改植事例（神奈川県）

気候変動やヒートアイランド現象による影響

近年の気候変動の影響により夏季の高温乾燥や暖冬が常態化してきています。その影響は桜にも出始めており、夏季に葉の萎れ、枝の先端にある葉の矮小化や早期落葉が見られるようになってきました。『染井吉野』が秋に開花する不時現象は台風による潮風害や食葉性害虫を含めた早期落葉が原因の一つです。また、春の開花時にも『染井吉野』の枝で開花速度が異なる咲き斑や隣接する『染井吉野』で開花速度が異なる現象が生じています。また、『八重紅枝垂』では開花に至らない花芽、『神代曙』では花が半八重化する現象もみられます。

気象の変化への対策は困難ですが、高温や乾燥によって葉が萎れた桜には適宜灌水することが有効です。葉を健全な状態で維持することは、初夏に形成される花芽の正常な成長にも効果があると考えられます。



不時現象



『染井吉野』の咲き斑



開花状態が異なる『染井吉野』



『神代曙』半八重化

外来種の到来

海外から侵入した病害虫は天敵がおらず猛威を振ります。バラ科の植物では特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる被害が甚大です。本種が1本の桜に多数加害した場合には枯死に至ることもあります。

本種が繁殖を始めた地域では桜を伐採する以外の対策がないため、成虫の侵入や幼虫の痕跡が確認できた初期段階で徹底的な対策を施して定着させないことが防除の鍵です。



クビアカツヤカミキリ（左オス、右メス）



クビアカツヤカミキリの幼虫によるワラス

【地域で活躍する桜守】

都市の厳しい環境で生育する桜には定期的な管理が不可欠です。特に昨今の急激な環境変化や外来の病害虫から桜を守るには早期の発見と対策が必要になります。そのためには日頃から桜を見守る体制が重要であり、その役割を期待されるのが地域の「桜守」です。桜について学んだ市民の有志が行政との協働で桜の管理に携わる「桜守」は今後益々重要な存在になると考えられます。

桜の大木は地域の資産でありシンボルでもあります。その桜との関わりは、四季の変化や生物本来の生活リズムを肌で感じることで、適度な運動、人や地域との交流及び知的好奇心の充足にもつながります。ポストコロナの新しい生活様式が模索されている今、桜を生活の一部に取り入れる意識を持つことが豊かな都市生活の一助になるのではと感じています。これを機に一人でも多くの方が日頃から桜に関心をもっていただければ幸いです。



NPOさがみはら
桜守の会
ポータルサイト



高校生と「桜守」によるコスカツバ対策（長野県）



NPOさがみはら桜守の会による「花数調査」